

第93期幹部航空操縦課程 卒業



発行所
明野駐屯地
広報班



#93POC卒業編隊飛行



卒業学生と学校長の記念撮影



卒業式(訓示)



卒業編隊飛行(搭乗報告)



壮行行事



卒業式(ウイングマーク授与)



卒業編隊飛行(終了報告)



ご家族及び隊員との記念撮影



令和6年7月29日(月)航空学校において、第93期幹部航空操縦課程(前期)の卒業行事が行われ、10名の若き陸上航空パイロットが誕生しました。卒業編隊飛行においては、ご家族が見守る中、卒業生が一糸乱れぬ見事なフォーメーション飛行を披露して有終の美を飾りました。

卒業式においては、航空学校長更谷光二陸将補より、航空操縦士記章「ウイングマーク」が授与され、その後の壮行行事においては、航空学校及び駐屯地の隊員から盛大な祝福を受け、卒業生は笑顔の中にも更に引き締まった表情を見せていました。卒業後は、各人ごとに決められた機種の操縦技能の習得のため、それぞれの新天地へと旅立ち、陸上航空パイロットとしての第一歩を踏み出しました。

日米交流イベント（米軍航空機研修）



表敬（ギフト交換）



オリエントシールド24

飛行支援（燃料給油）



飛行支援（航空機格納、タイヤ交換）



駐屯地は令和6年7月18日〜26日の間、国内における米陸軍との実動訓練（オリエントシールド24）に参加し、米軍航空機等の整備拠点として、主に訓練部隊等の管理支援及び米軍航空機の飛行支援等、駐屯地「一丸」となって各種支援を実施して、陸上自衛隊と米陸軍との共同対処能力の向上、日米同盟の抑止力・対処力の一層の強化に貢献しました。

部隊紹介

飛行教導隊



総合火力演習

飛行教導隊は、隊長古味2佐を核心として、航空学校、富士学校における教育訓練及び調査研究支援を任務として、各種課程教育に対する展示、航空機を使用した教育の支援及び一部の操縦教育等の教官支援を実施しています。また、航空学校の実動部隊として各種事態や大規模災害発生時においては任務を完遂し得る能力が求められています。そのため発着艦訓練、高標高地訓練、積雪地訓練等を行い、日々練度向上に努めています。

また、UH-2の部隊機種転換教育が今年8月から開始され、新機種の早期戦力化を図っています。

飛行教導隊は、全航空科部隊の指標として隊員が誇りをもって勤務しています。今後も風通しの良い部隊づくりを行い全航空科隊員の模範として、より一層日々の任務及び教育・研究支援等に取り組んでいきます。

空中消火訓練



UH-2機種転換教育



令和6年度新隊員課程（後期）

航空学校整備部

令和6年7月4日～9月12日の間、令和6年度航空学校新隊員課程（後期）教育が行われました。

今年入校した7名の新隊員は、陸上自衛隊航空科隊員として必要な、航空機整備や野外における諸行動の知識及び技能の修得のため、約2ヶ月間の教育訓練に取り組みました。

9月上旬に実施した野外訓練では、猛暑の中、重機関銃を使用した対空戦闘訓練等に積極的に取り組む姿が見られました。

9月12日（木）に行われた卒業式では、新隊員のご家族の他、三重県隊友会、三重県自衛隊家族会及び明野OB会の各会長にご参加いただき、入校時よりも更に逞しくなった姿を見ていただくことができました。

卒業後はそれぞれ、明野本校、霞ヶ浦校、宇都宮校及び飛行教導隊へ配属されました。彼らが今後、陸上航空戦士として立派に成長し活躍してくれることを期待しています。



対空戦闘訓練



行進訓練



野外宿営訓練

栄光の紹介

一機あたりの平均無事故飛行時間二〇〇〇時間達成による、中部方面総監第三級表彰第5対戦車ヘリコプター隊



創隊30周年記念人文字（令和6年3月19日撮影）

#145 陸曹候補生課程教育隊長賞
航空学校整備部 3曹 新井 優斗



「陸教で学んだ事を生かして、日々成長出来るように今後も努力していきたいと思えます。」

第2級陸上無線技術士試験合格
中部方面管制氣象隊 第1派遣隊 士長 北乾 聖登



「今回の試験に臨むことなく、日々勉強し、業務に邁進していきます。」

#155 上級航空管制員課程主席による第5術科学校校長褒賞
中部方面管制氣象隊 第1派遣隊 2曹 渡 佐奈美



「引き続き、航空管制の知識・技能の向上に努め、明野の管制を私が背負っていきます！」

定年退官



6月20日
総務部
2等陸佐
田口 美津留



8月1日
飛行教導隊
陸曹長
安達 洋治

真珠抄

『理論と実践』

哲学者カントの言葉に、「理論なき実践は盲目であり、実践なき理論は空虚である。」というものがあるそうです。

研究部で勤務する者として「行き当たりばったり」や「机上の空論」を戒め、検証サイクルを推進する上で銘肝すべき言葉だと思っています。

この言葉は、研究に限らず練度向上においても当てはめることができます。規則やマニュアル等の手順を理解しようとせず、失敗したり、逆に頭では理解しているはず

なのに実践ができないという場面に遭遇したこともあるのではないのでしょうか。実践による検証や練度向上が難しいこともあります。ヘリコプターの操縦で例えると、一部の緊急操作が挙げられます。そこで活躍するのがシミュレータです。シミュレータに限らず現実を模擬する精度は日々向上し、最近では現実世界と対になる「デジタルツイン」という言葉も浸透しているようです。もしかしたら理論と実践の境界が曖昧になってきているのかもしれない。

デカルトの言葉「我思う故に我あり」。人格と人工知能の境界はどうなっていくのでしょうか。

（航空学校研究部長）

永年の自衛隊勤務、大変お疲れ様でした。お二方のご健勝とご多幸を祈念致します。